

言語文化学科		教授	岡村 圭子	大学院の授業担当 有
教育活動				
教育実践上の主な業績		年月日	概要	
1 教育内容・方法の工夫(授業評価等を含む)				
1	学生が積極的に授業で発言するための取り組み	2003年4月～現在	講義のなかでテーマが変わるとき、その話題に入る前に一旦、学生を4～6人の小グループに分けてディスカッションさせ、互いの立場・意見を認識しあうように促す。その後、講義のわらいと目標を説明する。それによって学生の講義への参加意識を高める。また、適宜インターネット接続を利用して、学生が親しみやすい資料を提示する。	
2	学生がみずからの頭で考え、みずからの言葉で表現するための工夫	2003年4月～現在	ワークショップ形式で授業を行った後、それぞれの学生に用紙を配布し、感想や反省点などを記述させる。学生それぞれの記述に対し、翌週までにコメントをして返却する。あるいは「地域メディア論」では、実際にローカルメディアを作成してみる。このプロセスのなかで、自分の言葉で表現することの難しさと楽しさを学ぶ。	
3	多種多様な「異文化」教材を活用	2003年4月～現在	異文化関係を国際関係に限定せず、さまざまな角度から異文化／自文化をとらえ、異文化理解とはなにかについて考えるための教材を工夫。たとえば、関西と関東の落語ビデオや日本各地の食材・料理に関する資料など、身近な素材を用いることを心がけている。	
4	学生による授業評価アンケートの結果を活用	2003年4月～現在	毎学期終了後に実施されるアンケートの結果を参考に、次学期以降の講義の方向性や方法、進み具合について検討・調整する。	
2 作成した教科書、教材、参考書				
1	「地域メディア論」映像資料(編集DVD)	2010年3月	都市のなかのローカル・メディアに求められている役割と、メディアによって創り出される文化の様相について、いくつかの事例をふまえて考えるための映像教材。	
2	「異文化間コミュニケーション論」映像資料(編集DVD)	2007年4月30日	グローバル化する世界のなかで、「日本人」や「日系」といったカテゴリに属する人々はいかにしてそのアイデンティティを作りだし保持しているのか、といった問題について、具体例を提示するための視聴覚教材。	
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等				
1	地域の記憶—獨協大学教職員への聞き取り調査から	2008年9月～2009年12月	地域社会(松原団地周辺)と大学との関わりについて、獨協大学に長年勤務してきた教職員に聞き取り。岡村ゼミ2～3年生とともに、過去の「私的」な記憶を文字で記録することを試みた。獨協大学地域総合研究所編『地域総合研究』第2号に掲載。	
2	獨協大学インターナショナル・フォーラムで講演	2007年12月9日	テーマ: 多文化社会における「くに」と言葉)	
3	デュッセルドルフ大学現代日本研究所主催シンポジウムDiaspora in Japan, Japanese Diasporaで講演	2007年10月3日	テーマ: A Case Study on the Difficulties with Learning “Japanese” for Children of Japanese Origin in Germany、共同報告者 清水恵)	
4	Oberseminar: Interkulturelle Erziehung und Bildung im internationalen Vergleich II (PD Dr.habil. Mikiko Eswein) Institut für Bildungswissenschaft, (ハイデルベルク大学)で講演	2008年6月23日	テーマ: Kuni (Staat/Land) und Sprache in einer multikulturellen Gesellschaft. 多文化共生社会における「くに」と言葉、発表言語 日本語)	
5	立正大学社会学会特別講演会で講演	2008年7月3日	テーマ: 異文化と自文化—グローバル社会と日本のポップカルチャー	

言語文化学科	教授	岡村 圭子	大学院の授業担当 有
4 その他教育活動上特記すべき事項			
1	学内懸賞論文指導	2005年度～現在	岡村ゼミに所属する2～3年生を対象に、毎年、学内懸賞論文のための論文指導をしている。各自に合ったテーマ・レベルで指導し、卒論につなげることがねらいである。2005年度以降、ほぼ毎年ゼミから入賞者・入選者を出している。
学会等および社会における主な活動(学外の委員、役職等)			
年月日		活動内容	
1998年6月～現在		関東社会学会会員	
		関東社会学会での研究発表(1998年6月14日)	
		関東社会学会(東京)での研究発表(2002年6月1日)	
1998年11月～現在		日本社会学会会員	
		日本社会学会での研究発表(1998年11月)	
		日本社会学会(東京)での研究発表(2001年11月24日)	
2000年6月～現在		日本社会学会史学会会員	
		日本社会学会史学会での研究発表(2000年6月)	
2000年7月～現在		International Institute of Sociology会員	
		International Institute of Sociology(北京)での研究発表“Inter-dependence of Globalization and Localization: The Process of Consistence of YaNeSen as a Local-Cultural Unit”(2004年07月07日)	
		International Institute of Sociology(北京)での研究発表(2004年7月9日)	
		The 38th World Congress of the International Institute of Sociology(Budapest, Hungary)での研究発表、“Globalized “Japanese” Culture and Its Originality, Hybridity and Nationality: What Makes Localization Enforce(2008年06月29日)	
		The 39th World Congress of the International Institute of Sociology(Yerevan, Armenia)での研究発表、“The Created Local Cultural Unit: How YaNeSen Has Been Regarded as a Local Culture?”(2009年06月13日)	
2002年7月～現在		International Sociology Association会員	
		International Sociology Association(ブリスベン)での研究発表(2002年7月14日)	
		International Sociology Association(ブリスベン)テーマ部会での司会(2002年7月16日)	
		The 17th International Sociological Association World Congress of Sociology(Sweden, Gothenburg)での研究発表、“Nationality and Local/Cultural Identity: The Japanese-German Children in Düsseldorf”(2010年7月16日)	
2006年3月17日		北京工業大学で講演	
2006年6月21日		デュッセルドルフ大学で講演、学術交流	
2008年1月6日		Hawaii International Conference on Educationでの研究発表(共同発表者 清水恵) A Case Study on the Difficulties with Learning “Japanese” for Children of Japanese Origin in Germany	
2009年9月1日～2011年3月		草加市振興政策審議会・会長	
2010年10月～2012年9月		草加市男女共同参画専門委員	
2018年10月～		草加市みんなでまちづくり自治基本条例市民検証委員会・委員	

言語文化学科	教授	岡村 圭子	大学院の授業担当 有
2019年11月～	草加八潮消防組合消防審議会・会長		
その他			
<p>学内での役職:</p> <p>①国際教養学部・教務主任(2011年5月～2013年3月)</p> <p>②獨協大学地域総合研究所・主任研究員(2009年4月～2010年3月)</p> <p>③全学教授会・正議長(2008年4月～2010年3月)</p> <p>④舞踏研究会顧問、および「競技ダンス選手権・天野杯」会長(2010年～現在)</p> <p>科学研究費助成事業:</p> <p>①インターネット時代におけるニュースの構造変化に関する研究(立教大学社会学部成田研究室との共同調査)(2005～2008年) ニュースを取得する形式や頻度が、現代のインターネット環境のもとでどのように変化してきたかについて量的・質的調査を実施。</p> <p>②在外日系児童の文化的帰属意識について(若手研究B)(2007～2011年) 海外に居住する日本人を親に持つ児童の言語環境およびメディア接触について検討するなかから、かれらがいかんにして言語的／文化的帰属意識を形成しているかを考察。</p>			